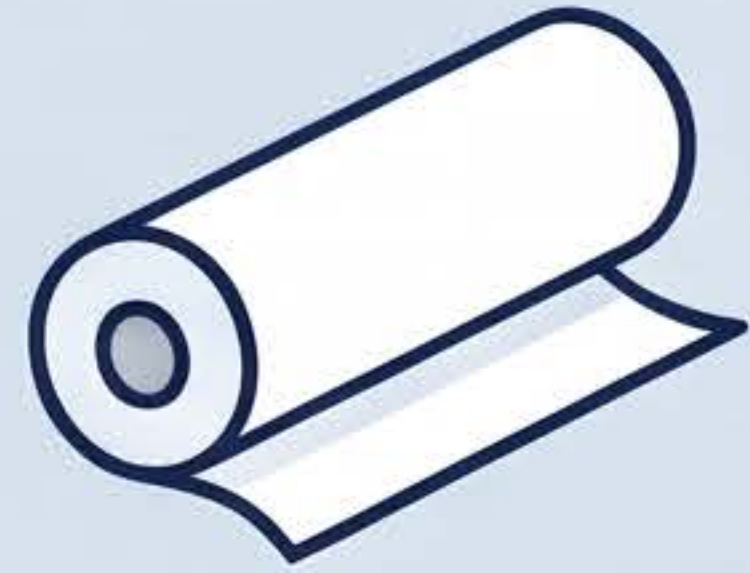


「ロール製品パッケージ」事件：進歩性判断とパラメータ発明の教訓

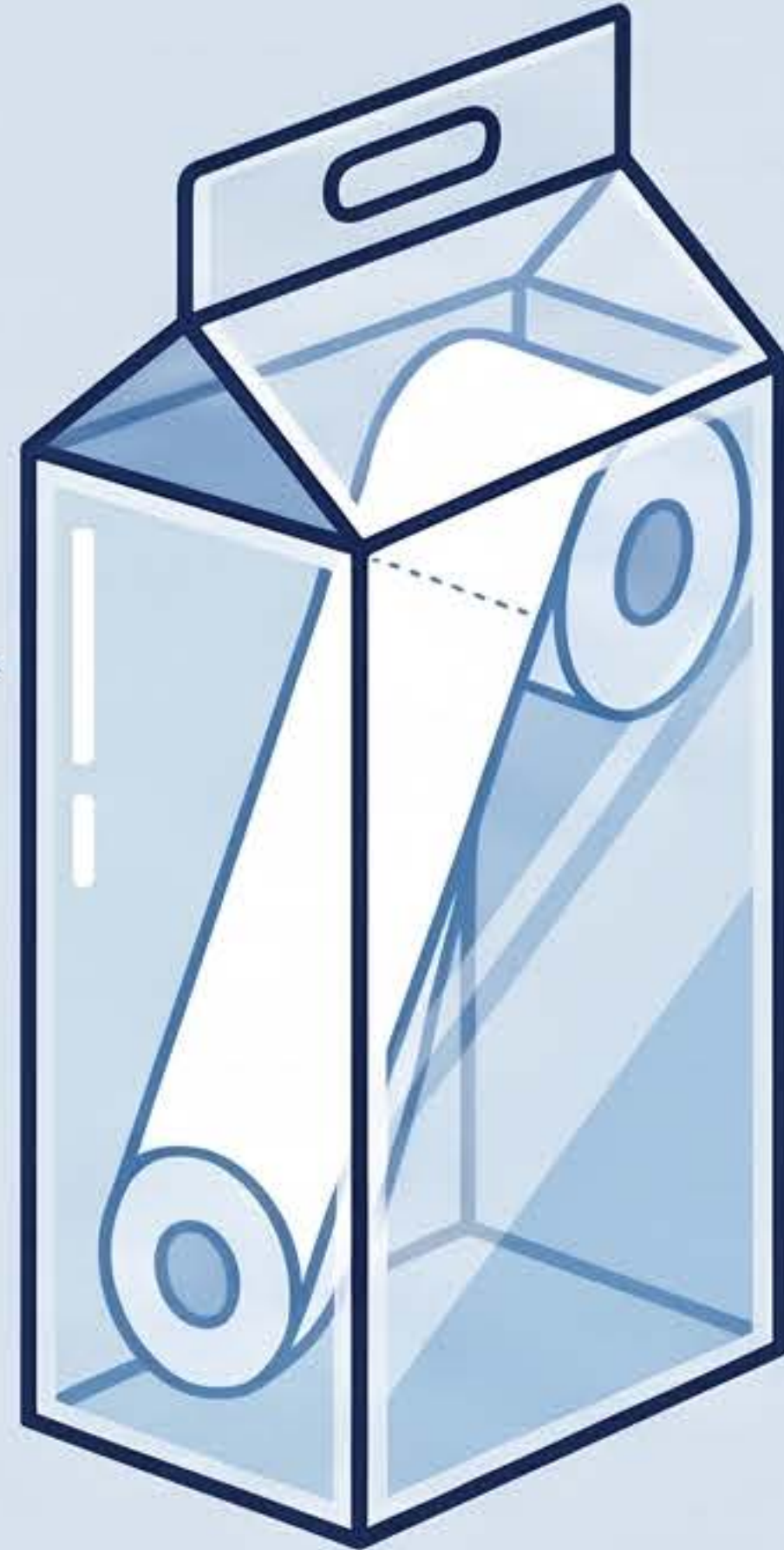


異議決定（特許維持）

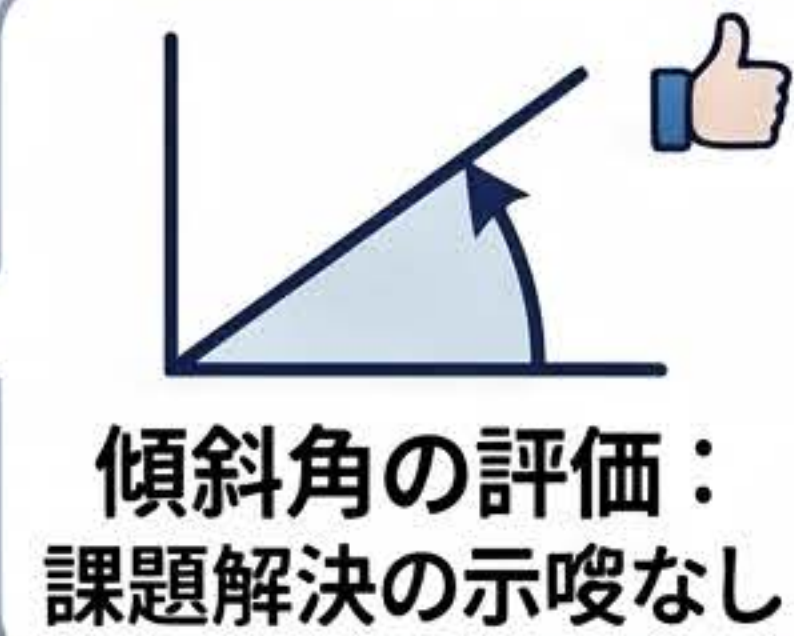
物性条件
（長巻ロール）



主引用例



特許維持



VS.

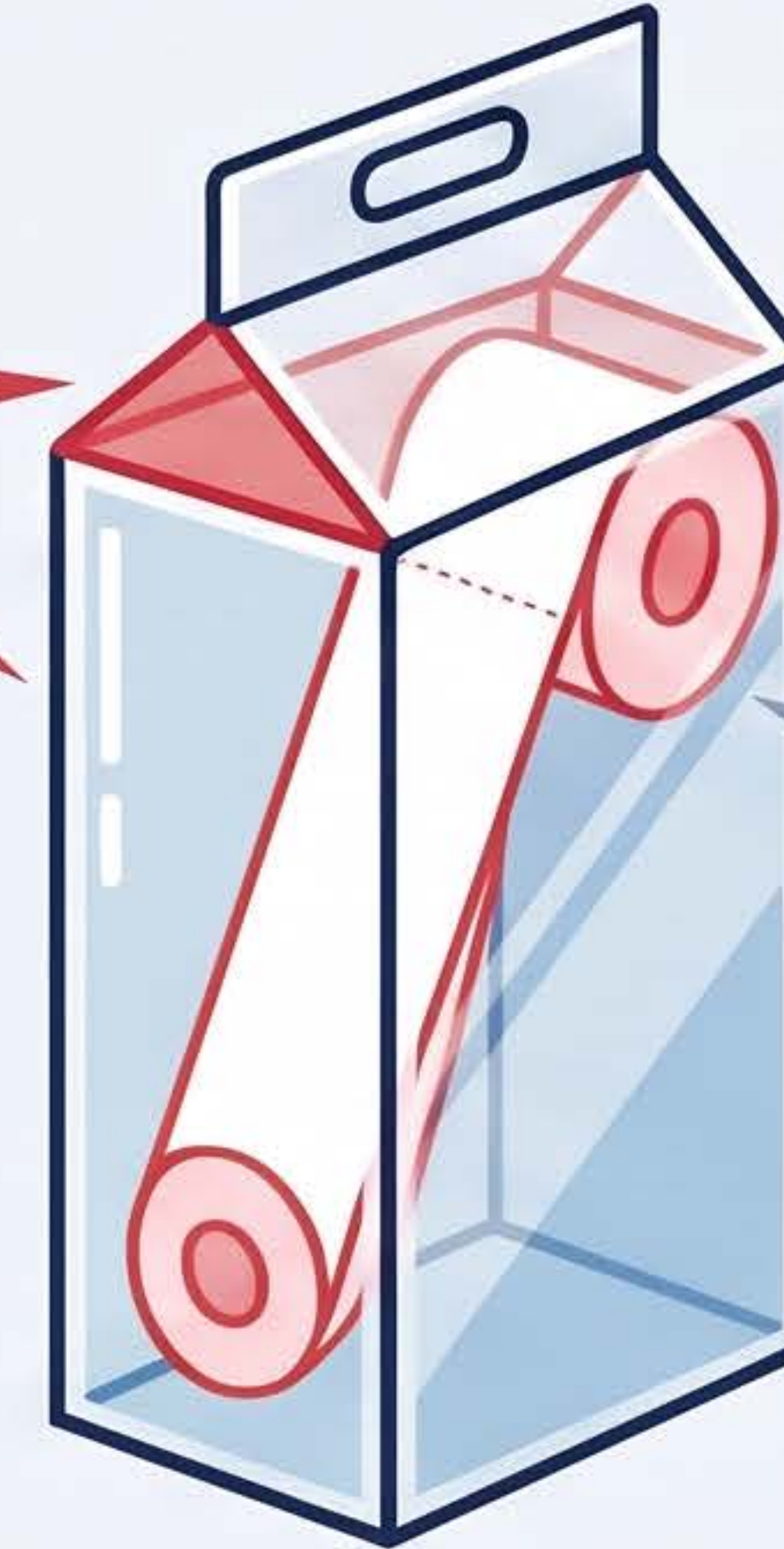
判断基準の変遷

警告：発明者特有の課題認識がなくても、当業者が別動機で構成に到達できれば進歩性は否定される（発想経路の独自性と非容易想到性は別物）

無効審決・判決（無効）



包装構造
（切妻屋根型）
主引用例



傾斜角の評価：
設計的事項
（調整可能）

パラメータ：物への
到達可能性を重視
（既存の具体例で散値範囲R=25~80を既に充足）

数値限定に顕著な効果は認められず（25~45度は実用的な範囲）



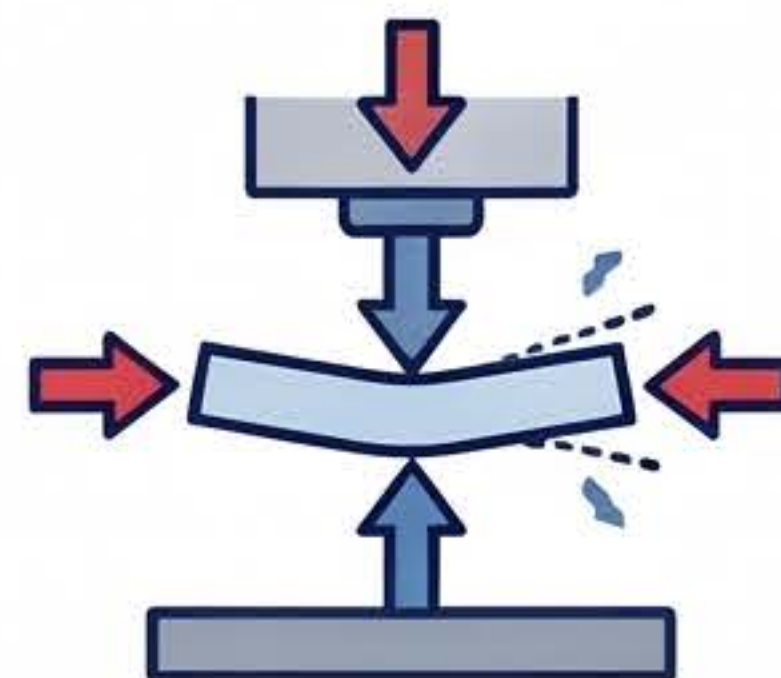
特許無効

実務上の教訓：出願・無効請求のポイント



引用例の「同時充足」を検証せよ

自社・他社の先行文献の物性値から再計算し、複数の限定を同時に満たすか確認が必須



力学的説明と客観的指標の提示

官能評価だけでなく、端部変形量や荷重等の客観的データで構成の意義を裏付けるべき



自社の先行出願も強力な引用例になる

自社の既存技術を組み合わせた改良発明でも、通常的设计変更とみなされるリスクを考慮する